

航空機は旅行などで搭乗する機会がある大型旅客機から、遊覧飛行や測量撮影、物輸、防災、急病人搬送などを担う小型機やヘリコプターなど幅が広い。幼少の頃から空港のそばで育った私は、いつの間にか飛行機が好きになり、空に憧れるようになった。パイロットへの道はかなわなかったが、航空整備士という仕事を知り、中日本航空専門学校を卒業してその道に進んだ。

飛行機好きにとって航空整備の仕事は、趣味と実益を兼ねた大職だといえよう。特に操縦席は

航空整備士の仕事

中日本航空専門学校就職
キャリア支援センター長 市原敏朗



感動とワクワクが止まらない空間だ。

機体のすべての情報が把握できる操縦席。一昔前は膨大なアナログ計器とスイッチが並ぶ空間だった。最近では多数の計器の代わりに大きな液晶画面が設置され、必要な情報のみがその時々表示される。整備士はそれらスイッチや表示一つひとつの意味や、操作時の信号の流れ、機体への影響など全てを把握し、不具合があれば修理する。パイロットからの故障報告を理解するため、飛行中の操縦操作知識も必要だ。

旅客定期便の整備を行うエアライン整備士は、安全最優先はもちろんのこと、定時運航を維持するため時間との闘いも重要となる。

購入費用が100億円を超える大型航空機の整備を任せられ、故障発生時は自身の経験と知識をフル活用し、お客さまならびに乗務員の安全と定時出発に強い責任感を持って修理する整備士たち。精神的なプレッシャーは皆さんの想像以上にかかるものだが、無事修理を終え、定刻で航空機を出発させることができた時の達成感や満足感は、何ものにも代え難い。